

馬見原を歩こう

6月8日、馬見原の「ろくまく坂」を歩く、ノルディックウォーキング体験会参加者の皆さん。

(16-17ページに関連記事、24ページに馬見原フットパスコースを掲載)



今月の主な話題

町長室から、採用試験	2
第1次補正予算(肉付予算)	4~5
総合計画審議会、保健だより	6~7
まちの話題、スポーツの結果	16~17
へき地保育所合同運動会、すくすく育て	20~21
馬見原フットパスコース、今月の一枚	24

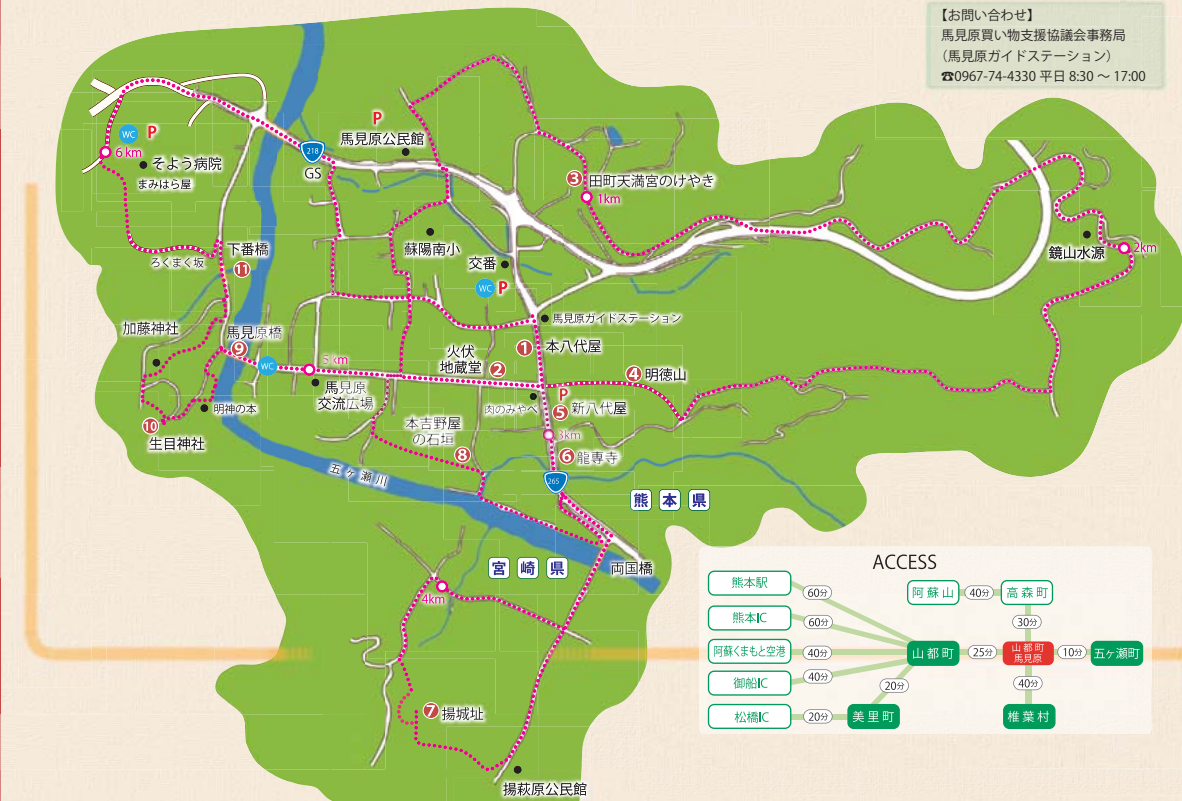
日向往還 宿場町

馬見原フットパスコース(7km)

フットパスとは＝イギリスが発祥で、森林や田園地帯、古い街並みなど、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことです。歩くことで見えてくる、地域ならではの風景や地元の方との触れ合いを楽しむことができます。

【コース紹介】
日向往還の宿場町として栄えた馬見原。歴史を物語る多くの史跡、建造物と風景ある石畳が自慢の街並みです。また美しい森や田園風景、五ヶ瀬川の自然も併せて楽しめるのが特長です。なおコースはどこからスタート・ゴールしても、また一部をバスしても自由です。思い思いに馬見原を楽しんで下さい。

【お問い合わせ】
馬見原買い物支援協議会事務局
(馬見原ガイドステーション)
☎0967-74-4330 平日 8:30 ~ 17:00



1 本八代屋



馬見原きっての豪商「八代屋」。享保年間に八代から移住し造酒・醤油・金融・山林業を営みながら現当主で10代以上となるという名家。馬見原の歴史を刻む貴重な「工藤家文書」がある。

2 火伏地蔵



「火伏せ」とは火事を抑える意味。永禄6年(1563)に順正寺からこの地蔵堂に遷仏された。造り物のルーツとされる火伏地蔵祭は毎年8月下旬に盛大に行われる。

3 田町天満宮の大ケヤキ



江戸時代後半から明治・大正にかけて繁栄を誇った商人のまち「馬見原」の生き証人で町外れの天満宮ひっそりと立つ。推定樹齢400年以上、幹周6m、樹高21m

4 明徳山



この山を「明徳山」と呼ぶのは明治19年(明(めい)十九(とく))に、商家の旦那衆が馬見原の繁栄を祈願してお稲荷様を祀ったことに由来する。古くは山伏の修行の場だったとされる。

5 新八代屋



以下でも稀な土蔵造3階地。主要部分にはケヤキを用いている。材料収集に3年、建築に5年の歳月をかけて明治25年に完成した。馬見原のシンボルであり貴重な文化財。

6 龍専寺



浄土真宗本願寺派の寺として寛永5年(1628)開基される古刹。西南戦役の折には薩軍傷病兵の野戦病院ともなった。本堂天井に描かれた明治20年頃の鮮やかな天井絵が素晴らしい。

7 揚城址



三田井48畝のひとつ、博多日記にある飯岡城だとされている。自然の丘で急斜面をうまく利用した立派な山城で阿蘇大宮司家の間わりもあった。現在は秋葉神社として祀られている。

8 本吉野屋の石垣



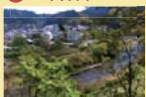
最盛期には16軒もあった造り酒屋の中でも最大規模の本吉野屋。当時の屋敷跡の石垣は、江戸時代に築かれたままの姿で残っている。馬見原の当時の繁栄ぶりを偲ばせる場所。

9 馬見原橋



清流五ヶ瀬川に架かる橋で上が車道、下が歩道に分かれている。白く緩やかな曲線が目をひくウッドデッキの歩道では、涼を求めて佇む人が多い。

10 生目神社



かつて豪商であった「櫓屋」八田家の別荘地で、明治初年に移入した人が、守護神として宮崎市の生目神社から分霊し祀られた。五ヶ瀬川、馬見原町の眺めと紅葉が美しい場所。

11 下番橋



五ヶ瀬川対岸に渡る三河橋に行く日向往還に架けられた橋で下番所も隣にあった。天保年間(1830)に造られ、橋の長さは5.2mと短いが、幅は3.2mもあるのは馬車の通行を基準に造られたから。

12 そよう病院



平成24年11月に移転新築された快適で最新の設備を備えた町立の総合病院です。病院内には地元商店が運営する売店「まみはら屋」があり、美味しいお弁当やパンなどがあります。

今月の一枚



仏法僧・飛び立つ瞬間

タイトル: 仏法僧・飛び立つ瞬間
撮影者: 藤本義也
撮影場所: 内大臣橋

コメント: 山都町は野鳥の宝庫。その中で一際注目を集める鳥それが仏法僧です。仏法僧を目当てに熊本県内はもとより九州各地から沢山の写真愛好家が撮影に訪れます。他の地域ではあまり目にすることができない珍しい渡り鳥です。山都町の自然の財産として大切に保護していきたいと思ひます。

連絡先: フォトサークル山都事務局
72-3455 (パソコンショップ あひる倶楽部内)

